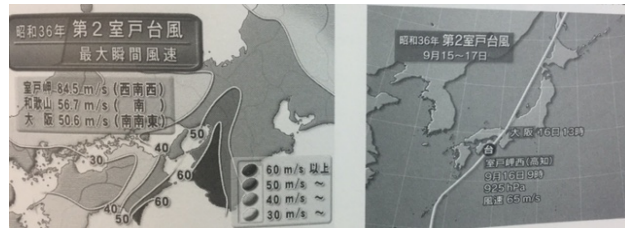


## 第二室戸台風

今回の台風 21 号は、大阪を直撃した第二室戸台風とも似通っている。台風の進路だけでなく、最大瞬間風速や高潮など規模の面でも共通するものがある。

ジェーン台風は『新修大阪市史』第 8 巻に詳しく記載されているが、第二室戸台風については、ごくわずかしか記述されていない。それで『NHK20 世紀日本 大災害の記録』2002 年、NHK 出版により、第二室戸台風について紹介する。

昭和 36(1961)年 9 月 7 日マーシャル諸島付近に発生した台風 18 号は、その後北上を続け 9 月 16 日午前 9 時ごろ室戸岬に上陸した。午後 1 時過ぎ



には阪神地区を直撃した。室戸岬での中心気圧は 925hPa、最大風速は 65m/s を記録した。この台風は昭和 9(1934)年、関西地方に大災害をもたらした「室戸台風」に匹敵する超大型台風で、コースもほぼ同じ経路をたどったために「第二室戸台風」と命名された。特徴としては暴風圏が広く、風台風として北海道を除く全国に被害を与えた。とくに阪神地区では最大瞬間風速 50.6m/s が吹き荒れ、大阪湾では 4.1m の大きな高潮が発生した。大阪市を中心に戦前の室戸台風、戦後のジェーン台風に続く 3 度目の大きな高潮災害であった。

大阪湾では台風通過と満潮時が重なり高潮は沿岸地帯に押し寄せた。これで神崎川、安治川、尻無川、堂島川などの堤防が決壊、西大阪地区のほとんどが浸水し、中之島公園も 1m 以上が水に浸かった。しかしこのときの浸水面積は高潮の潮位のわりには少なく 3100ha ほどであった。室戸台風の 4930ha、ジェーン台風の 5625ha と比べてもかなり軽微な被害ですんだ。流失家屋をみても 540 戸程度で、室戸台風の 4000 戸よりかなり少なかった。また死者の数はゼロというのも大型台風には珍しい現象であった。

このように被害が少なかったのはジェーン台風後にとられた高潮対策が効果をあげたためである。戦前の室戸台風では沿岸の工場地帯の地下水汲み上げによる地盤沈下が、高潮の被害をいっそう大きくし、ジェーン台風の時も同じ被害が繰り返された。このため大阪市ではジェーン台風後、防潮堤の補強や、地盤沈下地域の土盛りなど高潮対策を積極的に推し進めた。その結果が死者ゼロにつながったのである。

第二室戸台風は昭和時代に大都市を襲った最後の大型台風であったが、防災対策をしっかりやれば被害は最小限にできることを証明することができた。

(2018年9月8日)